

Lib,

京都産業大学図書館報

v.2 8, no. 1 (Apr. 1, 200 1)

ホームページに掲載中 <http://www.lib.kyoto-su.ac.jp/>



本学所蔵 賀茂葵祭行装ノ図より

特集 新入生歓迎号

巻頭言 「自分を捜す旅」にでよう

図書館長 今井 薫

新年度になって、学生諸君は学部・大学院への入学や新たな学年へ進級されたことと思う。それぞれ、履修ガイダンス、就職説明会への参加など、なにかと心忙しい日々を過ごしているヒトも多いはずだ。でも、せっかくの「節目の時」だからこそ、こんな時期に少し普段の趣味とは違う本を読み、自分を発見する内省の旅に出て欲しい。

「自分を捜す旅」、というと少し気障な感じがするが、実は決してそのように大層なものではない。たとえば、日本人の年間自殺件数は、交通事故死亡者数の比では無いほどに多い。「自動車に気をつけてね」とか、「運転に注意してね」というより、「自殺しないでね」と注意の方がよいくらいである。私たちは、日頃ほとんど「自分とは何だろう」という疑問を持たない。そんなことを考えなくてもふつうの生活をして行くには困らないからだ。でも、それはみんなの肉体が困らないだけなのだ。現代社会は、多くの場合、「肉体の快適さ」を満足させるには十分なツールを提供できているけれど、果たして普段は沈黙している「精神」に十分な快適さを提供しているだろうか。自殺者の多さを思うとき、私はこの問いにノーと答えざるを得ないのではないかと思うのだ。

「自分を捜す旅」にでよう 今井 薫 1

本当の勉強がはじまる 蓮井 敏 2

道しるべとなる本を2冊 西村 佳子

ちびくろサンボはどこへ行ったか 横山 桂 3

大学で何を学ぶか 高橋 菜子

自分探し 有本 淳

次世代型図書館のゆくえ 横部 正良 4

いんぷおめーしょん 5 - 6

「いい友達」をつくることは、もちろん大切なことだ。しかし、心に栄養を与えてくれる友達という奴は、実際にはほとんどいないものだ。なぜなら、自分がとるに足らない人物だとすれば、その程度の友達しかできないのが道理だからだ。いい友達を得ようとすれば、残念なことに自分を磨くしか手がない。

そこで、諸君にいい先輩を紹介してあげよう。「アスクレピオスにお供えをしなければね」といって亡くなった(ことになっている。「パイドン」)ソクラテス先生。「行け、行け、そして死ね」という神の声を聞いたジャン・クリストフ(ロマン・ロランの小説の主人公)クン。いつか前世でも月光の中に糸をつむぐ蜘蛛や遠くで吠える犬の声をまったく同じシチュエーションで見聞きしたことがあることに気づいてしまったニーチェ(「ツアラトウストラ」)先生。私たちは、幸いにもこのような偉大な人々にも書物を通じさえすれば、時代を超えて簡単に会うことができるのだ。

さあ、諸君。人類史に名を残す偉人たちに、図書館というタイム・マシーンで会いに行こう。

(いまい かおる / 法学部教員)

本当の勉強がはじまる

蓮井 敏

受験のための勉強は、ある意味でラクな勉強です。入試問題は、あらかじめ正解が準備され、それと合致するかどうかですから、教科書や参考書の記述をメモリーに入力して、試験で間違いなく出力するという構造です。すると、受験のための勉強は教科書や参考書を「覚える」ことになり、「なぜだろう？」と疑問を抱いたり考えることは、まことに効率が悪いこととなります。受験勉強とゆとり教育は相いれないものです。

記憶容量の大きさや入出力の正確さや早さで、偏差値という数字が弾きだされましたが、ひとりひとりの能力や人間の値打ちがそんな一片の数値で表せ、一列に並べられるわけはありません。「受験ゲームは終わった！」と考えなければなりません。新しい出発です。

現実の社会、私たちが生きる世界は、残念ながら正解がひとつだけ準備された世界ではありません。いくつも解があったり、解が知られていない問題、もしかすると解がない場合だってあります。活字になっているからすべてが真理・真実とはかぎりません。定評ある1冊の本だけ手にして乗りきれほど現実には甘くはありません。1冊の本はひとつの説や考え方であって、もしかすると間違っているかも知れません。他の本には、まったく反対のことが書いてあることも一杯あります。教科書や参考書を「神のことば」のように信じて、疑うことなく鵜呑みにしておればよかった、あるいは強制されていた受験勉強から解放され、これからは、自己責任で理解し、考え、判断しなければなりません。個性や感性を發揮することが求められます。本当の勉強が始まるのです。

そのとき、教科書だけでなく、できるだけ多くの本を読むことは、さまざまな考え方や知識を得て、自分自身の答えを見いだすひとつの方法です。試験から解放されたら、新聞とTVの情報だけで十分、もう本なんて読まなくてもよいだろうと思うのは間違いです。一生つきあっていく本の読み方ですから、一日も早く、会得したいものです。それは、読むことを通じて身につくものですから、読みなれない人も、とにかく1冊でも読むことから始めましょう。どのように読めばよいかと思うとき、数ある読書論とか読書法の本が参考になります。その中からひとつ紹介しておきます。

加藤周一『読書術』 岩波現代文庫(社会24)*

「おそく読む」「はやく読む」「本を読まない」「外国語の本を読む」「新聞・雑誌を読む」「むずかしい本を読む」読み方を書いています。「読まない」読書法だってあるのです。

(はすい さとし / 経済学部教員)

道しるべとなる本を冊

西村 佳子

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

まずは受験勉強から解放されたばかりの皆さんに、さらりと読める1冊を。Michael Z. Lewin(田口俊樹訳)の『のら犬ローヴァー町に行く』* なんていかがでしょうか。些細なことにまで正義感を發揮しすぎて他人の行動に寛容になれない人や、自分の手に余る仕事をひとりで抱え込んで破綻してしまうような人を、「要領が悪い」と評しますが、のら犬ローヴァーは、これとは対極で、知恵があって要領の良い犬です。要領がいいだけでは魅力的な人物とは評されないものですが、ローヴァーの場合、本質的な所で正義感を發揮するところが好ましく、その方法が猪突猛進型でないところが心にくいのです。また、「群に属さず他者を拒絶せず」という絶妙なバランス感覚は、人づきあいに不器用だと嘆く人に参考になるでしょう。物語はのら犬社会を舞台にしていますが、ローヴァーは、アメリカの厳しい競争社会を軽やかに歩いて行くタフな人物を彷彿とさせます。

次に、大学に入って新たな学びを始める皆さんへの最初の1冊として、苅谷剛彦の『知的複眼思考法』*

を読むことをお勧めします。少し話がそれますが、大学時代に受けた講義で、学年の全児童が逆上がりができるようになった小学校の事例が取り上げられました。ある先生は「班毎に、放課後も休日も全員が逆上がりができるまで協力して練習した成果であり、児童が達成感を得て、努力の重要性を学んだすばらしい指導事例だ。」と話し、別の先生は、「放課後や休日に練習を強いられた子どもたちの中には転校する子どもまで出た。逆上がりができることはさほど重要なことではないのに、画一的で誤った指導事例だ。」と講義をされ、非常に驚いた記憶があります。おそらく皆さんも、大学で同じような経験をするでしょう。こんなときに、「先生によって違うことを言う。けしからん。」なんてぼやいてはいけません。「学年全児童が逆上がりができるようになった学校」というひとつの事実であっても、複数の視点に立つことによっていくつかの全く異なる結論をもたらします。聞き手は、論じ手がどの視点から見ているのかを把握し、別の視点から見れば別の結論が得られるのではないかと考えながら聴く必要があるのです。この本には、常識の呪縛から解放され、自分の頭で考えながら読み、書き、聴き、議論するためのヒントが詰まっています。豊かで面白い事例に引っかかって(?) 常識にとらわれ柔軟な思考を失っている自分に気づかされるのも悪くありません。

(にしむら よしこ / 経済学部教員)

1988年7月、アメリカの有力な新聞である『ワシントン・ポスト』に、「人種差別的な」絵本『ちびくろサンボ』が日本の多くの子どもに読まれており、黒人を類型化したキャラクター・グッズが何種類も売られているという状況を批判する記事が掲載されました。これがきっかけとなって、大阪在住の一家3人で結成された「黒人差別をなくす会」が、この絵本を刊行していた11の出版社に販売の中止を求める手紙を送りました。

驚いた出版社は、1988年11月の学習研究社に始まって翌年1月の雄鶏社まで、わずか3か月たらずのあいだに11社すべてが『ちびくろサンボ』の絶版に踏み切りました。ところで、この絵本は、日本での最初の刊行いらい数十年にわたって子どもたちに親しまれてきた絵本でした。11もの出版社が同じ本を刊行していたことが、その何よりの証拠でしょう。

今度は読者が驚きました。各出版社はほとんど何の説明もなしにこれを絶版にしましたし、新聞・雑誌・テレビなどで絶版措置とこれにまつわる問題がさまざまに取り上げられたからです。

問題とは、『ちびくろサンボ』に差別性はあるか、あるとすれば何が差別的なのか、原作の絵と文章を変えて（翻案）出版することはどの程度までなら許されるのか、絶版にしたのは正解だったか、絶版にするまでの経過に間違いはなかったか、図書館は以前と同じようにこの絵本を利用者に提供しつづけてよいか、などでした。

中でも、十分に議論・検討すべきだという立場から、原作者の絵と文章、黒人の声、この絵本の刊行の歴史などを載せるとともに、関係者の意見を幅広く紹介して考える材料を提供したのが、径書房の編集・出版による『「ちびくろサンボ」絶版を考える』（1990年）*

です。故人となっている原作者のヘレン・パナーマンの意見を聞けないのと、岩波書店以外の出版社が口をつぐんでいる点が残念ですが、差別との向き合い方についていろいろ考えさせてくれる本です。

この『絶版を考える』刊行からほぼ10年後に、『ちびくろサンボよ すこやかによみがえれ』（灘本昌久著、径書房、1999）* という本が出版されました。この本は、差別される側の痛みだけで問題を片づけようとする姿勢を批判し、『ちびくろサンボ』は黒人の子どもたちに夢と勇気を与えてきた本だと言いきるなど、さまざまな点で主張が明快で、差別のことを考える上でこれまたとても参考になるものです。

（よこやま かつら / 情報サービス課）

本書のテーマは、「大学で勉強する学問を用いて何を学ぶか」ということに尽きる。

欧米と違い、日本には道徳や教養を学ぶ場が元々用意されていないため、魅力的な人間となるためのセンスは自らが意識して磨いていかなければならない。そうした場として筆者が選んだのが、大学である。

筆者は理論の柱として、人間はエゴイズムによって動くと言明して憚らない。多くの人間とその個性がエゴイズムをエネルギーとして各々の方向へ社会を引っ張り、その全てを合わせた方向へ社会全体が進んでいくことを理想として提唱している。本書で数々の社会問題を例にとり、異形の学説を取り入れるなどして、柔軟で時には、極端な独自の解決策を提案しているのも、その可能性を信じる故かもしれない。

そしてエゴイズムを原動力とするためには、まず自分自身のものの考え方を確立する必要があるのである。新入生の皆さんにもこの先、自分とは異なる価値観を持つ多くの人や出来事との出逢いが待っている。ぜひそれが自分の持つ常識を試し、時には相手を許しながら幅広い考えを鍛える機会となって、皆さんにとってかけがえのない経験になればと思う。

（たかはし さいこ / 経済学部 H13卒）

自分探し

有本 淳

読書とは何か。その答えは人それぞれだろうと思いますが、私は「自分探し」もその一つだと思います。私も大学時代の読書によって、色々な自分を発見することができました。私が大学時代に読み、印象に残っている3冊を紹介します。

・辻仁成『母なる風と父なる時化』（新潮文庫）*

函館を舞台にした小説で「自分とは何者で、どこから来て、どこへ向かうのか」という少年の葛藤を短い夏の経験を通して描いています。

・鷲沢萌『君はこの国を好きか』（新潮社）*

韓国人の在日3世を主人公にした小説が2つ収められています。通名（日本名）と本名、日本人と韓国人。「一体自分は何者であるのか、何者でありたいのか」という問いに苦しむ若者の姿が描かれています。

・虹影（ホンイン）著、浅見淳子訳『裏切りの夏』（青山出版社）*

1989年の中国の天安門事件を舞台にした半自伝的小説です。中国では発禁になりました。あの夏、多くの中国の若者が、自由を求めて血を流しました。我々が

当たり前だと思っている自由が存在しない世界が、一人の若者の眼を通して描かれています。

皆さんも色々な本や言葉に出会い、新しい自分を発見して下さい。大学生活は、あっという間に終わります。読書に限らず、やりたいことに精一杯没頭して、実りあるものにして下さい。

(ありもと じゅん / 外国語学部 H13卒)

本誌で紹介した資料および所蔵情報

『読書術』加藤周一著 / 019 - KAT 661351/C2

『のら犬ローヴァー町に行く』Michael Z.Lewin著,
田口俊樹訳 / 933 - LEW 945072/C2

『知的複眼思考法』苅谷剛彦著 / 141.5 - KAR
838673/C2

『「ちびくろサンボ」絶版を考える』径書房編 / 316.8
- KOM 909481/C2

『ちびくろサンボよすこやかによみがえれ』灘本昌
久著 / 316.84 - NAD 898177/C3

『大学で何を学ぶか』長野倬士著 / 377 - NAG
754812/C3

『母なる風と父なる時化』辻仁成著 / 913.6 - TUZ
820209/C2-B

『君はこの国を好きか』鷺沢萌著 / 913.6 - SAG
932464/C2-B

『裏切りの夏』虹影(おひ)著,浅見淳子訳 / 発注中



次世代型図書館のゆくえ

横部 正良

中央図書館が開館して既に14年経過しました。当時先進的であった機能、設備も既に一般化し、授業改革や学習ニーズの変化によって利用形態や利用者数に変化が生じ、十分なサービスが難しい状況も生まれています。

この図書館に実に25年振りに勤務することになって1年が過ぎました。そして、異動当初最も戸惑ったのは、電子図書館という目新しい言葉が氾濫していることでした。

この電子図書館と従来の図書館の違いを簡単に説明すれば、概ね次のようになります。今日、インターネットやCD-ROMを通して各種の情報に接することはごく普通のことになっていますが、同時にこれまで図書館に求めた情報、資料に、図書館という場所に制約されることなくパソコンを通してスピーディーに辿り着くことができる。そんな時代がすぐそこに来ているというのです。

インターネットに接続していれば、目的の資料をパソコンで探し、パソコンで得ることができる。書架の前を歩きつ戻りつ探す必要もなく、話し声に邪魔されることもなくなります。必要な資料のキーワードや書名、雑誌記事名を入力すれば、求める内容がディスプレイに表示されるという、まさに自宅や下宿に図書館があると同様の環境、最高の学習空間を獲得することができるわけです。それだけではありません。誕生日の新聞記事やテレビニュースだってクリックするだけで見ることができるのです。そうなれば図書館は事務室と閲覧室だけで事足りることになります。その閲覧室も殆んどパソコン室に変わり、従来のままの閲覧机にはパソコン用の電源と情報コンセントが設置されているでしょう。

電子図書館の行き着くところはこんなところでしょうか。実現すれば夢のような話ですが、今の段階では残念ながら夢の話でしかありません。全ての図書館資料がネットワークを通じて利用者に提供されるには、解決されなければならないいくつかの大きな問題があります。

その一番の問題は、著作者と出版業者の権利を保護する著作権とこれに付随する権利にあります。図書や雑誌は商業ベースで発行されるものです。全ての著作物がデジタル化されてネットワークで提供されると、誰も本や雑誌を買わなくなりますから、作家の生活は成り立ちませんし、出版社も存続できなくなります。そのために、当然デジタル化される雑誌記事は有料になり、閲覧者が負担することになります。図書については、暫くの間解決は無理ではないでしょうか。

図書館の持つ著作権の切れた貴重書や大学の紀要等をデジタル化し、世界中の研究者に供することも各大学で行われつつあります。しかしこれには相当の人と財源を必要とすることから、厳しい財政事情の私立大学には大きな負担となり、急速に進むことはないでしょう。

また、大学、公共図書館間の相互利用、協力においても、デジタル化された情報をどのように扱うことになるのか。大学間の規模の違いがサービスの格差をさらに広げる結果となる可能性も持っています。

従来の紙文化、つまり印刷物に慣れてきた我々に、ディスプレイで読書することや資料調査ができるのか。何となく不安にもなります。

この分野の先進国アメリカでも研究が始まってまだ7~8年、端緒についたばかりの電子図書館ですが、利用者にとって便利なものは問題点も早期に解決されて、意外に早く進展することになるかもしれません。

(よこべ まさよし / 資料管理課)

「日経テレコン 21」「Lexis-Nexis」など新たに導入！

4月から(*)印のデータベースが新たに利用できるようになりました。

ゼミの発表やレポートを書くときの参考資料を探すときには「雑誌記事索引」や「朝日新聞：DNA」などが非常に役に立ち、すでによく利用されています。

今回新たに導入した「日経テレコン21」や「Lexis-Nexis」も就職情報や企業情報、外国の法律・判例文献を探したいときに便利です。

学内のパソコンならどこからでも、図書館のホームページから自由に利用できます。

データベースの検索が終了したときは、必ず終了手続きをおこなってください。

データベース名	提供機関	内 容
雑誌記事索引	国立国会図書館	1975年以降の日本の主要な学術雑誌の論文・記事が検索できる
MagazinePlus	国立国会図書館等	上記の「雑誌記事索引」の検索に加え、学会・論文集などの論文も検索できる
MLA International Bibliography	Modern Language Asso. of America	1963年以降に収録した文学・言語学・民俗学に関する文献が国際的・網羅的に検索できる
Literature Resource Center(*)	Gale Group	Contemporary Authors, Dictionary of Literary Biographyなどを統合した文学に関する情報(作家研究・作品解説・評論など)が全文検索できる
朝日新聞：DNA	朝日新聞社	1985年から今朝の朝刊までの記事が検索でき、本文が読める
日経テレコン 21(*)	日本経済新聞社	1975年以降の日経4紙(日経新聞・日経産業新聞・日経流通新聞・日経金融新聞)の全文記事検索と企業情報、人事情報などが検索できる
Lexis-Nexis(*) Academic Universe	Lexis-Nexis	一般の新聞・雑誌記事からビジネス情報、法律情報、医薬情報など幅広い情報が収録されている。フランス語、スペイン語、ドイツ語など多言語の媒体やビジネス誌、企業情報、産業ニュース、SEC関連書類、また米国(連邦・州)判例、法律、規則、ローレビュー、リーガルニュース、米国特許、EU法規など。MEDLINE、医薬関連ジャーナルも含まれている。
EBSCOhost	EBSCO社	人文・社会科学や経済・経営・ビジネス関係の英文雑誌約3000誌の全文記事が読める
ScienceDirect 21	Elsevier社	理学・工学関係の雑誌記事検索ができ、本学が購入しているElsevier社発行の雑誌記事が読める

図書館以外でも使えます 法学関係 CD-ROM

日本の法律関係の雑誌記事や判例を探すときは、下記のCD-ROMが便利です。図書館3階のCD-ROM検索コーナー、1階パソコン室、法学部41メディア演習室で利用できます。

判例体系 CD-ROM	第一法規	1890年以降の判例が検索できる
法律判例文献情報 CD-ROM	第一法規	1981年以降の法律文献と判例が検索できる
現行法令 CD-ROM	ぎょうせい	現行の法令・政令・省令が検索できる

いんぷおめーしょん

平成13年度図書館利用教育スケジュール

今年度も新生入生・ゼミ受講生・大学院生・留学生・一般学生を対象に、図書館の使い方や文献の探し方などを習得するための利用教育を実施します。

新生入生には、5月中旬から必修科目の「コンピュータ基礎実習」などの情報教育授業のなかで、利用案内、文献・情報の探し方（入門編）地下書庫の案内、オンライン目録の検索実習などをおこないます。

ゼミ受講生には、「ゼミ学生のための文献探索ガイダンス」として4月から11月にかけて、ゼミのテーマに沿って、文献探索法とCD-ROMの検索実習などをゼミのクラス単位でおこないます。

また、昨年度の新入生からとくに要望が多かったレポート・論文のまとめ方については、4月～6月、10月～11月の水曜日午後（隔週）にビデオを利用したガイダンスをおこなう予定です。実施スケジュールは館内掲示板に掲示します。

図書館利用教育を受講することで、大学時代ばかりでなく生涯にわたって役立つ、情報を使いこなす力を身につけてください。

館内を改装しました

2階喫煙室と3階コピー室のグループ学習室改装とともに、3階閲覧室のオンライン目録コーナー、CD-ROM検索コーナー、コピーコーナーをそれぞれ変更しました。

オンライン目録コーナーはカウンター式で、立ったまま検索します。

詳しくはメインカウンターなどに置いてあるフロアマップをご覧ください。

グループ学習室が増えました

2階・3階階段横の喫煙室がグループ学習室に生まれ変わりました。増設になった4部屋は、ご希望の多かった3～4人用です。どうぞご利用ください。

シラバス（講義要項）掲載の参考書が図書館に

講義要項に掲載された先生方ご推薦の参考書を、図書館で用意しています。

1部購入できない資料もありましたが、おおむね発注しました。今どんどん入ってきているところです。どうぞご利用ください。

図書館内は禁煙です！

今年度より、館内すべて禁煙となります。館内の灰皿はすべて撤去しました。休憩室でも、吸うことができません。どうぞ協力ください。

編集後記

新生入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。今までの高校生活と違って、大学はすべて自分の責任という名において、自由です。授業を受けることも自由であれば、サボルことも自由です。勉学の強要はされません。

しかし、そこで立ち止まって、よく考えてみてください。「何のために大学へ進もうとしたのか？」「なぜ、産業大学へ入学したのか？」etc. いろいろ自問自答しなければなりません。これらの動機や目的が明確になった時、はじめて大学生活の存在意義が見出せるのではないのでしょうか。

そのために、図書館では「皆さんが学ぶこと」へのバックアップを惜しみません。是非、一度図書館を覗いてみてください。（Lib. 編集部）

発行 京都産業大学図書館
所在地 〒603-8555 京都市北区上賀茂本山
電話 (075)705-1470